

競 技 注 意 事 項 (万博会場)

1. 本競技会は 2024 年日本陸上競技連盟競技規則と本大会申し合わせ事項により行う。

- (1) 審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ競技者はその指示に従わなければならない。明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズはチェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。なお、本競技会では全フィールド種目では上記の要件・備考に記載されている「靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。」の規定は適用を除外する。

競技用靴・靴底の厚さに関する規定 (TR5.2) 【2024 年 10 月 31 日まで有効】

種 目	靴底の最大厚さ	要 件 ・ 備 考
フィールド種目(除:三段跳)	20mm	全投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (800m 未満の種目、ハードル種目を 含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m 以上の種目、障害物競走を含 む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と 同じとする。
道路競技(競走・競歩)	40mm	

重要告知

競技用靴に関する規程 5.3 に従い、2024 年 11 月 1 日以降、靴底厚が下記の表に記載されている最大の厚さを超える既存靴は承認されなくなり、対象競技会では着用できなくなる。

【2024 年 11 月 1 日から有効】

種 目	ソールの最大厚さ	その他の要件 / 注意
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技 と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズ または ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、競技用靴に関する規程 10.3 および 10.4 に記載のとおり、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、 踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない(前足の中心 は、靴の内部の長さの 75%にある靴の中心点。踵の中心 は、靴の長さの 12%にある靴の中心点)。
道路競技(競走・競歩)	40mm	
クロスカントリー	20mm スパイクシューズ または 40mm ノンスパイクシューズ	競技者はスパイクシューズまたはノン・スパイクシューズ(ロ ードシューズなど)を履くことができる。スパイクシューズを 履く場合、靴底の最大の厚さは 20mm を超えてはならな い。ノン・スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さ は 40mm を超えてはならない。
マウンテンレース トレイルレース	制限なし	

- (2) 招集所および競技エリア内でスマートフォン・携帯電話・タブレット等の通信機器や録画再生機器等を所持・使用することはでない。(TR.6.3.2)

- (3) 当該種目出場の競技者以外は、競技区域に立ち入ることができない。また、競技者は招集完了後競技終了まで、当該競技役員の許可なく競技区域から離脱してはならない。

2. 競技場（スタンド）への入場について ※競技場出入口（ゲート）図参照

- (1) トラック内、及びスタンドへの入場に正面玄関入口を使用しないこと(競技役員を除く)。
(2) トラック内への出入りは、EゲートおよびFゲートを使用すること。
(3) スタンドへの入場は、各スタンドのゲートを利用すること。開門時の入場はメインスタンドBゲートおよびCゲートとする。

3. 練習について

- (1) 公園内での練習は一切認めない。
(2) 練習はサブグラウンドで行うこと。学校・個人のハードルやラダーなどは持ち込まないこと。
また、ゴムチューブなどを使ったスピード練習は禁止する。危険防止のため日傘の使用は禁止とする。
(3) 練習ではメディスンボールなど、物を投げる練習は禁止する。
(4) 走高跳、走幅跳、三段跳は準備が整った後、競技役員の指示で練習してもよい。
(5) 競技開始前のトラックでの練習については、次のとおりとする。

競技開始前の競技場での練習について

競技会開始前の競技場（トラック）での練習は、周囲の動きに十分注意して行うこと。
ただし、練習可能時間内であっても競技会準備を優先とし、競技役員の指示に従うこと。
なお、競技場での練習は9時00分までとする。

なお、安全のため日傘の使用を禁止する。

※いずれもジョグはレーン外で ・ 1. 2レーンは長距離ペース走用

【1日目】

〔ホームストレート〕

3～6レーン=コーナーからのスプリント練習

7・8レーン=直線からのスプリント

〔バックストレート〕 ※2、5レーンは帰路として使用

3レーン=女400mH 4レーン=男400mH

6～8レーン=リレー練習

【2日目】

〔ホームストレート〕 ※3、6レーンは帰路として使用

4レーン=100mH 5レーン=110mH

7～8レーン=直線からのスプリント練習

〔バックストレート〕

3～6レーン=コーナーからのスプリント練習

7～8レーン=直線からのスプリント練習

【3日目】

〔ホームストレート〕〔バックストレート〕

3～5レーン=コーナーからのスプリント練習

6～8レーン=直線からのスプリント練習

4. 招集（コール）について

(1) 招集時刻（招集所：室内練習場）

招集時刻	トラック	棒高跳以外の跳躍	棒高跳	投てき
開始時刻	30 分前	50 分前	80 分前	60 分前
完了時刻	20 分前	40 分前	70 分前	50 分前

- (2) 競技者は招集開始時刻までに招集所内に待機し、競技服装（アスリートビブス・トラックでは腰ナンバーカードを付けている状態）になり、競技で使用するシューズのチェックを受ける。整列点呼後、招集所から各競技場所へは、競技者係の誘導によってまとまって移動する。
- (3) 招集に遅れた競技者は、欠場したものとして処理する。
- (4) 点呼の代理は認めない。ただし、**同じ時間帯に競技が行われる可能性がある場合には、第1種目の招集開始までにプログラム巻末にある多種目同時出場届を招集所に提出すること。**その際、アスリートビブス、ユニフォーム、第2種目のシューズのチェックを受ける。なお、第1種目は招集を受けなければならないが、提出をした第2種目は、代理を立てる必要はない。
また、ラウンド進出により同じ時間帯に競技が行われる可能性が発生した場合には、すみやかに多種目同時出場届を招集所へ提出すること。
- (5) リレーのオーダー用紙提出時刻について
- ①オーダー用紙はプログラム巻末の所定の用紙を使用し、第1組の招集完了時刻の60分前までに競技者係に提出すること。なお、オーダー用紙の提出がない場合は、出場する意思がないものとして処理する。
 - ②招集時にはオーダーメンバー全員が点呼を受けること。他種目に出場していて、多種目同時出場届の提出が完了している場合には代理を立てる必要はない。
- (6) 止むなく欠場する場合は、プログラム巻末にある「欠場届」を、招集完了時刻までに招集所に提出すること。

5. 競技進行について

(1) 番組編成およびラウンドの通過について

- ①トラック競技の予選のレーン順、およびフィールド競技の試技順はすべてプログラム記載の順番とする。なお、準決勝以降の組み合わせはすべて番組編成員が行い、場内アナウンスおよび場内スクリーンに表示するとともに、大阪高体連WEBページに掲載する。
- ②トラック競技における次のラウンドへの進出者について
(ア) 800mを除くレーンを使用する種目で(+ α)を決めるとき、その最下位で同タイム(1/100秒単位)が出た場合、1/1000秒単位で優劣の判定をする。なお、1/1000秒単位まで同タイムの場合は、本人または代理人により抽選する。
(イ) 同着により着取りによる進出者が増えた場合は、(+ α)での進出者数を減らす。
(ウ) 800mとレーンを使用しない種目は、同タイム(1/1000秒単位)の競技者は全員次のラウンドに進める。

(2) 競技について

- ①競技結果は、場内アナウンスおよび場内スクリーンで発表するとともに、大阪高体連WEBページに掲載する。なお、ラウンド進出に関わるものを除き紙による掲示は行わない。
競技結果が場内アナウンスで発表された時点を正式発表とする。
- ②当該種目出場者以外は競技エリアに立ち入ることはできない。
- ③スパイクのピンの本数は11本以内とし、9mm以下のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については12mm以下とする。また、先端近くで少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。スパイクのピンのチェックは1次招集時に行う。

- ④アスリートビブスは胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでよい。
- ⑤トラック競技では、腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方に付けること。なお、4×400mの第2・第3走者は、次走者の待機順を明確にするため、右側に腰ナンバーカードをつけること。なお、腰ナンバーカードは主催者が用意する。
- ⑥トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュ後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- ⑦競技エリア内に通信機器（スマートフォン・携帯電話等）やビデオ撮影機器（タブレット等）を持ち込んで서는ならない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。また、フィールド競技中に競技者が、それ以前の試技映像を観るため録画再生機器などをスタンドからの手渡しや吊り下げる等により競技エリア内に持ち込むことは認めない。
- ⑧トラック競技における連呼応援は、アナウンサーの通告やリレーの受け渡しの声が聞こえない場合もあるので、応援のマナーとして自粛するように。また、フィールド競技者の試技開始時の発声に対するに応答応援は、競技運営上影響する場面が多いので、これも自粛するように。
なお、手拍子については決勝のトップ8以降のみ可とする。（高さ種目においては概ね8名）
- ⑨個人所有の椅子や日傘、大型のクーラーボックス等などは、競技会への影響や安全確保・危険防止のため競技エリアへの持ち込みおよび使用を禁止する。

(3) 高さの種目 バーの上げ方は下記のとおりとする。

走 高 跳	男子	1年	1m55(練)	60	65	70	75	80	以後3cm	ずつ上げる			
		2年	1m60(練)	65	70	75	80	以後3cm	ずつ上げる				
	女子	1年	1m25(練)	30	35	40	45	48	以後3cm	ずつ上げる			
		2年	1m30(練)	35	40	45	48	以後3cm	ずつ上げる				
棒 高 跳	男子	1年	2m40	から	以降	4m00	まで	20cm	ずつ	4m00	以後	10cm	ずつ上げる
		2年	3m00	から	以降	4m00	まで	20cm	ずつ	4m00	以後	10cm	ずつ上げる
	女子	1年	2m00	から	以降	10cm	ずつ上げる						
		2年	2m00	から	以降	10cm	ずつ上げる						

※練習の高さは選手の実力に応じて追加することがある

最後の一人となり、優勝者が決まるまでは、上記のバーの上げ方とする。

同記録による1位決定と近畿大会出場権を決定するバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

男子棒高跳および女子棒高跳の練習は現地にて跳躍審判の判断により設定する。

(4) 跳躍種目 競技場所および踏切板位置について

- ①走高跳はAゾーン、棒高跳はバックスタンド側ピットで行う。
- ②走幅跳・三段跳はメインスタンド前ピットで実施する。1組をAピット(トラック側)、2組をBピット(スタンド側)とする。1年女子三段跳は1組(1ピット)で実施する。
- ③三段跳の踏切位置(砂場から)

男子三段跳 1年…11m 2年…12m 女子三段跳 1年…9m 2年…10m

(5) 投てき種目について

砲丸投を除き、投てき種目について、次の記録以下の者はベスト記録のみ計測する。

種目	男子1年	男子2年	女子1年	女子2年
円盤投	20m	25m	20m	20m
ハンマー投	20m	30m	15m	20m
やり投	30m	35m	20m	20m

※当日の気象状況などにより投擲審判の判断で計測ラインを変更する場合がある。

(6) フィールド競技の試技時間は次のとおりである。

【単独種目】

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※ 4人以上または各競技者の最初の試技

※※残っている競技者数が2名以上の時に適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

6. 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。
- (2) やりは競技場備え付けのものを準備するが、検査を受けて自己の物を使用してもよい。
検査は、競技開始時刻の90分前～70分前までに受けるものとし、Fゲートから入場のうえ、器具庫へ持参すること。

7. 抗議について

抗議は日本陸上競技連盟競技規則により、当該校顧問から、総務員に口頭で申告し、総務員が審判長に取りつぐ。

8. 表彰について

- (1) 各種目で6位までの入賞者（入賞チーム）に賞状を授与する。
第3位（リレーは6位）まで種目表彰を行うので、成績発表後直ちに受賞者席（玄関ロビー）に集合のこと。ただし、男女4×100mの表彰は大会最終日の競技終了後に行う。なお、個人種目は4位から6位にも賞状を渡すので、成績発表後、速やかに玄関ホールまで賞状を取りに来ること。
- (2) 総合表彰式では以下の表彰を行うので、当該校（当該者）は必ず参加すること。
 - ①男子総合、女子総合の8位までに入賞した学校
 - ②男子1年総合・男子2年総合・女子1年総合・女子2年総合で3位までに入賞した学校
 - ③男子1年、男子2年、女子1年、女子2年の優秀競技者
 - ④男女総合優勝校の監督（顧問）
- (3) 学校対校得点は1位8点、2位7点…8位1点とし、1・2年の得点およびリレーの得点を合計して総合優勝を決定する。

9. 近畿ユース大会について

- (1) 近畿ユース大会への出場者は各学年、各種目3位までの入賞者とする。ただし、男女走高跳および男女棒高跳は3位までに入賞した3名とする。リレー種目は6位までとする。
- (2) 近畿大会の出場権を得た競技者は、必ず近畿大会受付にて申し込み手続きを行うこと。
- (3) リレー種目の出場権を得たチームは、近畿大会受付でリレーオーダー用紙を受け取り、オーダーを記入後、顧問のサインを得て申し込み手続きを行うこと。

10. 式典について

- (1) 開始式は第2日目（8月13日）の9時10分より正面スタンド前で行う。
- (2) 総合表彰式は第4日目（8月15日）の競技終了後に行う。総合の部該当校の代表者は参加すること。

11. 競技場の使用について

- (1) 応援はスタンドで行い、競技場トラック周辺に降りて行わない。また、スタンド最前列及び中央通路での立ったままの応援・観戦も禁止する。日傘を使用しての観戦はテントの設置規程に準じる。
- (2) スタンドの椅子や手すり・壁などにガムテープや養生テープなど、粘着性テープを貼らないこと。
- (3) 以下の箇所にはテントを設置しないこと。
 - ①サイドスタンド・バックスタンド中央通路より下側
 - ②メインスタンド中段通路より下側および屋根の下
 - ③ビデオ監察の撮影の支障となる場所およびコーン・トラバーで規制された場所取り禁止区域なお、テントを設置する際に、ロープ等が通路にかからないようにすること。
- (3) 各校部旗・横断幕は、バックスタンド・サイドスタンドを使用すること。
- (4) 更衣室の使用は更衣のみとし、使用後はすみやかに退室すること。また、一切の私物等を置いてはならない。
- (5) スタンド等使用した場所は、各校で責任を持って清掃し、ゴミ等は必ず持ち帰ること。
- (6) 通行禁止、使用禁止等の指示については厳守すること。
- (7) トラック、フィールドおよび練習走路以外でのスパイクの着用は禁止する。

12. その他

- (1) 競技場敷地外の公園内ではシート、テント等による場所取りは禁止する。
- (2) 顧問の受付がない学校の競技者の出場は認めない。
- (3) 競技中に起こった怪我等は、本部の医務室で応急処置のみを行う。
- (4) 盗難の発生や忘れ物に注意し、荷物等の管理は各校で十分注意すること。
- (5) 外国人留学生が大会記録を更新した場合の取り扱いは、大会記録（国際）として認定する。
- (6) Jアラート警報が発令された場合は、競技を中断する場合がある

個人情報の取り扱いについて

プログラム記載の個人情報（名前、学校名など）および大会結果は、新聞および大阪陸上競技協会・大阪高体連陸上競技専門部のWEBサイト等に記載されますが、本大会関係以外には一切使用しません。また、本大会が認めた報道機関が撮影した映像が中継・録画放送されることがあります。

＝ 周 知 板 ＝

第 57 回近畿高等学校ユース陸上競技対校選手権大会について

期 日：9月13日（金）・14日（土）・15日（日）

場 所：滋賀県彦根市 平和堂 HATO スタジアム（彦根総合スポーツ公園陸上競技場）

総監督：船津哲史（大塚）